

SharePoint Online移行サービス



deepcom

株式会社ディープコム

MS開発部

01

*SharePoint Online*移行時の課題

SharePoint Onlineへ移行する際に対応すべき一般的な項目とは？



IT部門

既存サービスから移行を完了するための**移行計画の策定**

既存サービス利用状況等の**現状把握**

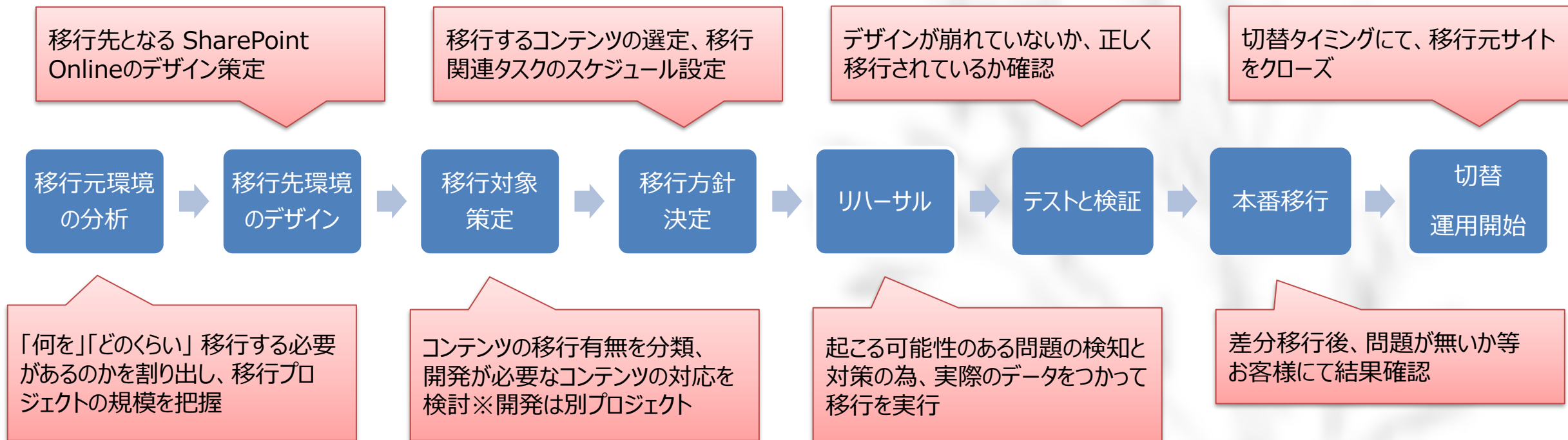
既存サービスの利用用途を確認した上で、**移行対象の選定**

Work Flow等SPOで搭載されていない機能の**対応検討**

移行期間中やSPO移行後の**運用方針**

SharePoint Onlineへの移行時、「移行する機能を絞り込まないまま、全部の機能を移行する」という失敗がよく見られます。SharePoint Serverには400以上の標準機能が搭載されているため、そのまま全部移行してしまうと十分に機能を使えず、かえって混乱を招いてしまいます。

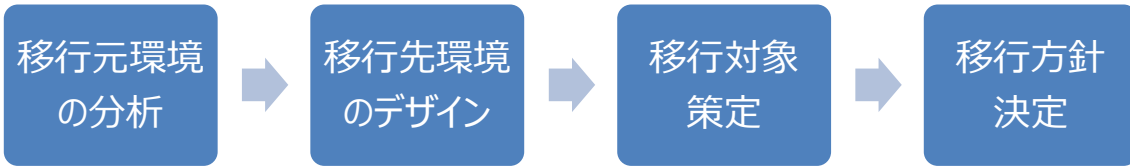
よって以下のステップで移行していくのが一般的な流れとなっています。



02

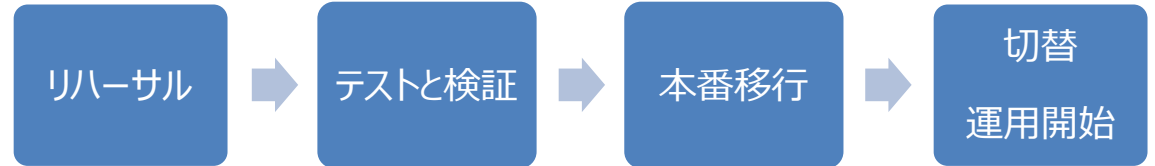
移行支援サービス 概要

移行元環境をSharePoint Onlineへ移行し、正しくサポートされた環境でのサービス継続を実現するため、現状調査とアセスメントを実施し、移行方針を決定致します。
また、移行にあたっては現在ご利用ユーザー様への影響を最小限にしサービス継続を目指します。



移行アセスメント

ShareGateを利用した現状棚卸と移行作業工数の節約。
棚卸結果を元に移行先環境のサイト設計支援を行いながら、
移行先コンテンツ選定と移行方針の決定までをご支援し、
移行計画のご支援を行うフェーズです。



SharePoint Online設計、移行、開発

移行計画に沿って移行先環境の設計構築を行い、対象コンテンツの
移行や標準機能では実装できない機能の開発を行い、運用管理
ツールによる運用負荷軽減等のご支援を行うフェーズです。

移行アセスメントフェーズ

移行元環境 の分析

現状調査と分析を行います

移行先環境 のデザイン

SharePoint Onlineの構成確認を行います

移行対象 策定

コンテンツごとに移行難度を分類します

移行方針 決定

移行対象を決定します

SPO設計、移行、開発フェーズ

リハーサル

環境を準備し実データを使ってリハーサルを実施

テストと検証

移行先での動作を確認します

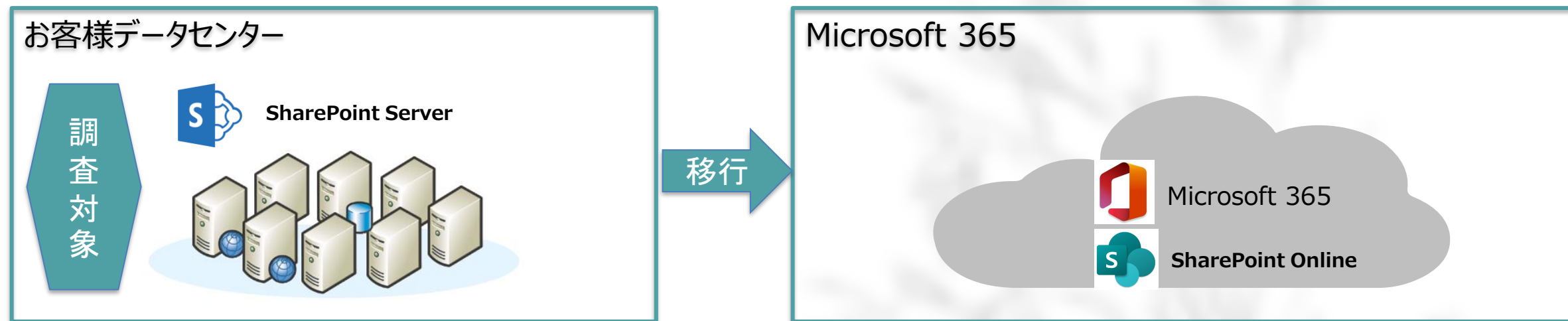
本番移行

移行対象をすべて移行します

切替 運用開始

運用支援を行った上で本番運用を行います

移行ツール（ShareGate）を用いた**現状サイト棚卸**により適正な移行方針を策定



1. 現状調査のため、SharePoint の移行/運用管理ツール “**ShareGate Desktop**” を利用します。
 - SharePointへアクセス可能なPCの準備をお願いします
 - SharePoint調査のためのアカウントの付与をお願いします
 - SharePointへアクセス可能なPCに対してリモートアクセスできるようお願いします

※ShareGate Desktopは、現状調査完了後もSPO運用管理ツールとして有効です。
2. SharePoint Onlineへ移行方針策定のため、SPOに関するテナント情報提供をお願いします。

03

移行支援サービス 詳細

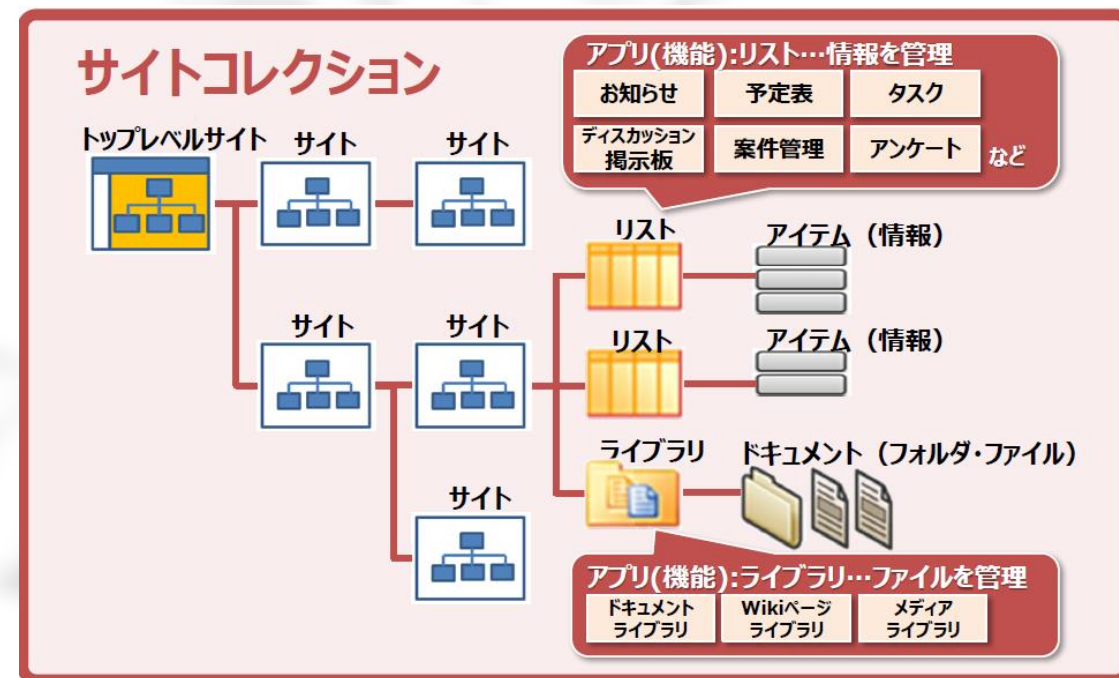
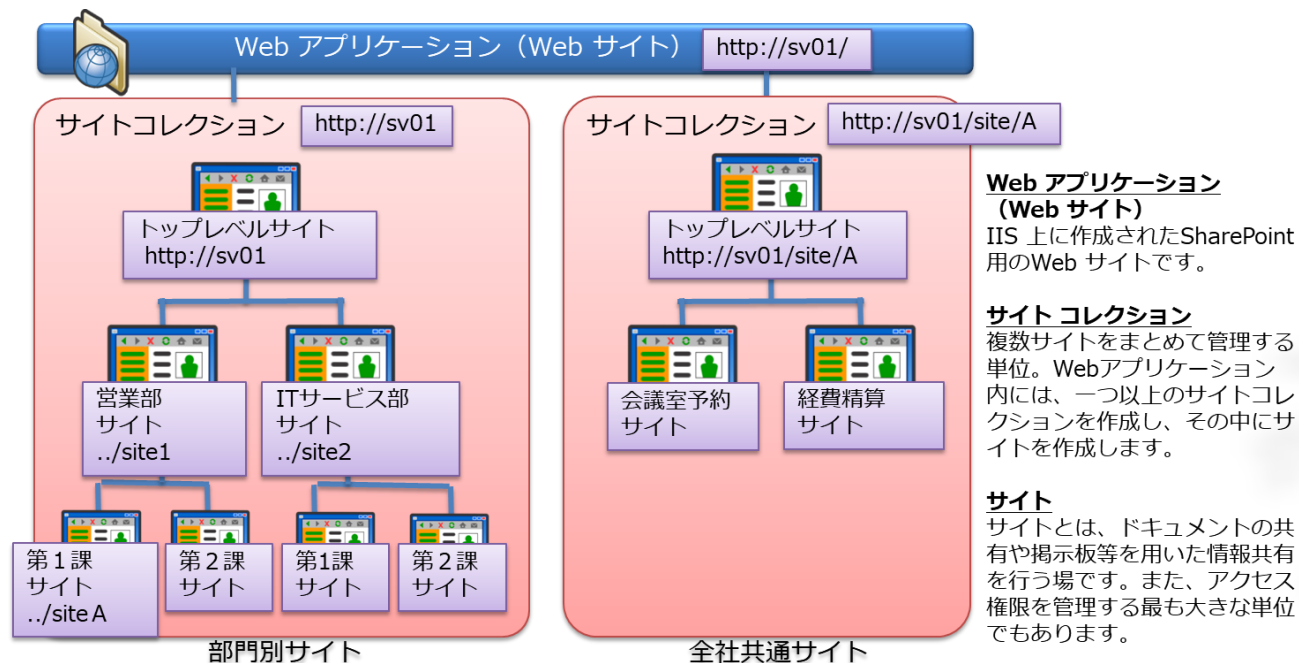
PowerShellを使って、移行元環境の情報を一括取得し利用状況の分析を行います

#	レポート	対象	内容
1	サイト一覧コンテンツレポート	オンプレ	コンテンツ（リスト／ライブラリ）の件数や最終更新日を一覧で取得する
2	Webパーツレポート	オンプレ	ページおよびリストに登録されているWebパーツの名前や種類を一覧で取得する （リストの規定ビューは除外）
3	InfoPathレポート	オンプレ	InfoPath フォームに関連付けられているリストの一覧を取得する
4	JSLinkレポート	オンプレ	リストの規定ビューから、JSLinkの設定値を一覧で取得する

移行ツール（ShareGate）のレポート機能を使って、移行元環境をレポートし分析を行います

#	レポート	対象	内容
1	権限マトリックスレポート	オンプレ/オンライン	サイト、リスト、ライブラリ、ドキュメント、アイテムにどのユーザーやグループが何の権限を付与されているのか表示可能
2	監査報告書	オンプレ	監査ログを元にコンテンツの編集や削除、サイト権限の変更、ワークフローの実行などの履歴を参照可能
3	サイトレポート	オンプレ/オンライン	サイトの容量、作成日、最終更新日、サイトの管理者を一覧で表示可能
4	サイトコレクションレポート	オンプレ/オンライン	サイトコレクションの容量、サブサイトの数、作成日、最終更新日、サイトの管理者を一覧で表示可能
5	チェックアウトされたドキュメントレポート	オンプレ/オンライン	チェックアウトされているファイル、誰がチェックアウトしているかを一覧で表示可能
6	サイトカスタム権限レポート	オンプレ/オンライン	サイトの権限が上位継承されていないサイトの一覧を表示可能
7	未使用サイトレポート	オンプレ/オンライン	最終更新日を元に、6ヶ月以上更新がないサイトの一覧を表示可能
8	外部ユーザーレポート	オンライン	外部ユーザーの権限が付与されているサイト、OneDriveの一覧を表示可能
9	外部共有レポート	オンライン	外部ユーザーの権限が付与されているサイト、リスト、コンテンツの一覧を表示可能
10	孤立したユーザーレポート	オンプレ/オンライン	ADで削除されたユーザーや無効なユーザーが、SharePointへ権限が付与されたままのユーザーの一覧を表示可能
11	ワークフロー付きリストレポート	オンプレ/オンライン	SharePoint WorkFlowが適応されているリストの一覧を表示可能 ※2010、2013、Nintex
12	ワークフローレポート	オンプレ/オンライン	作成されたSharePoint WorkFlowの一覧を表示可能 ※2010、2013、Nintex
13	Tems要約レポート	オンライン	チームの一覧、チーム作成日、チャネル数、公開分類、管理者、メンバー、ゲストユーザーの一覧を表示可能

現状の**棚卸結果**を元にサイトコレクションおよび配下のサイトについて**利用目的などによる定義**を行い
必要なパターンのサイトコレクションを定義します ex) 部門別サイト、共通サイト、プロジェクトサイト...



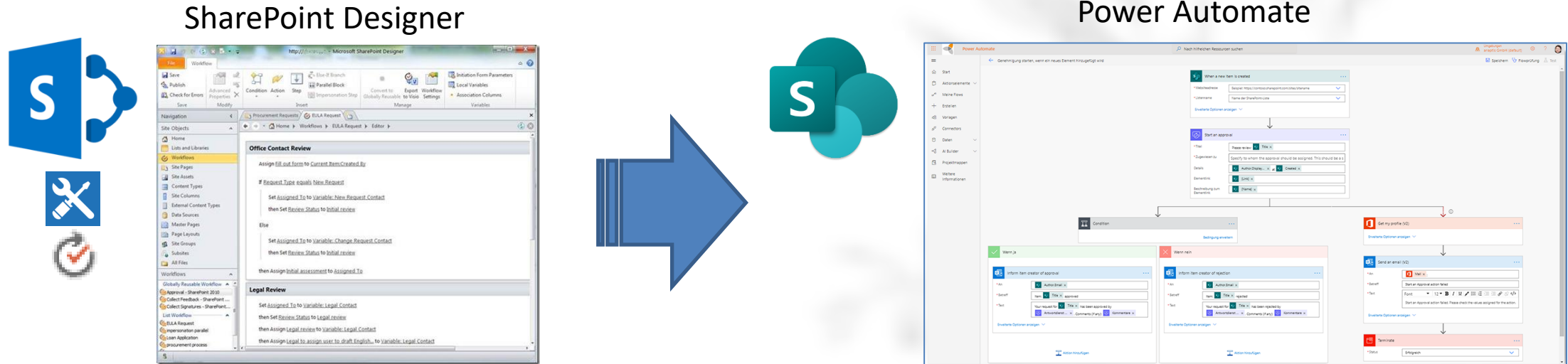
サイトコレクションは、複数のサイトをまとめる管理単位です。
サイトは、アプリ（リスト・ライブラリ）の集合帯で、情報を集約し表示する場所です。

現状の棚卸結果を元に以下移行対象グルーピング（A,B,C,D,Zパターン確定）を実施し移行対象を選定するコンテンツごとに移行する為の難易度がわかる為、費用対効果を考えながら移行するのか塩漬けにするのを検討することが可能になります。

グループ名	内容
Aパターン	SharePoint Onlineへ単純移行が可能な対象
Bパターン	軽微な改修が必要な対象 （改修工数1-3人日程度）
Cパターン	中規模程度な改修が必要な対象 （改修工数3日-5人日程度）
Dパターン	SharePoint Onlineへ完全移行が困難な対象 例：PowerAutomateへ作り替えが必要なワークフロー、InfoPathを利用したリスト
Zパターン	統合・廃棄

※ グルーピングは現時点での想定ですので、棚卸結果を元にグルーピング分類については別途協議させていただきます。

- ワークフロー等SharePoint Onlineでは利用不可なコンテンツでどうしてもOnlineへ移行する場合はPower Automateで作り直しやPowerAppsでの開発等が必要となる



全く別のサービスとなるため、1 から作り直しが必要

似たようなワークフローを作成可能だが、実行タイミングや同一の動作を再現出来ない箇所もあるため要件の確認を行い、場合によってはワークフロー条件の見直しが必要な場合も発生いたします

棚卸分類結果を元に移行対象を選定し、移行方針を決定します。
移行時には内容を精査したチェックリストを作成し、各項目のチェックを行います。

□ サイト

- サイトデザイン
- サイトの権限
- サイトのナビゲーションリンク
- 多言語ページ

□ リスト

- リストの設定（日付の表示形式、参照列等）
- ビューの設定
- アイテムの数
- リスト、アイテムの権限
- アイテム内のリンク
- ワークフロー
- JavaScriptカスタム
- アイテムの作成者、更新者、作成日時、更新日時
- チェックアウトアイテム

□ ドキュメントライブラリ

- ライブラリの設定（日付の表示形式、参照列等）
- ビューの設定
- フォルダ、ファイルの数
- ライブラリ、フォルダ、ファイルの権限
- ファイル内のリンク
- ワークフロー
- JavaScriptカスタム
- ファイルの作成者、更新者、作成日時、更新日時
- チェックアウトファイル

□ 開発

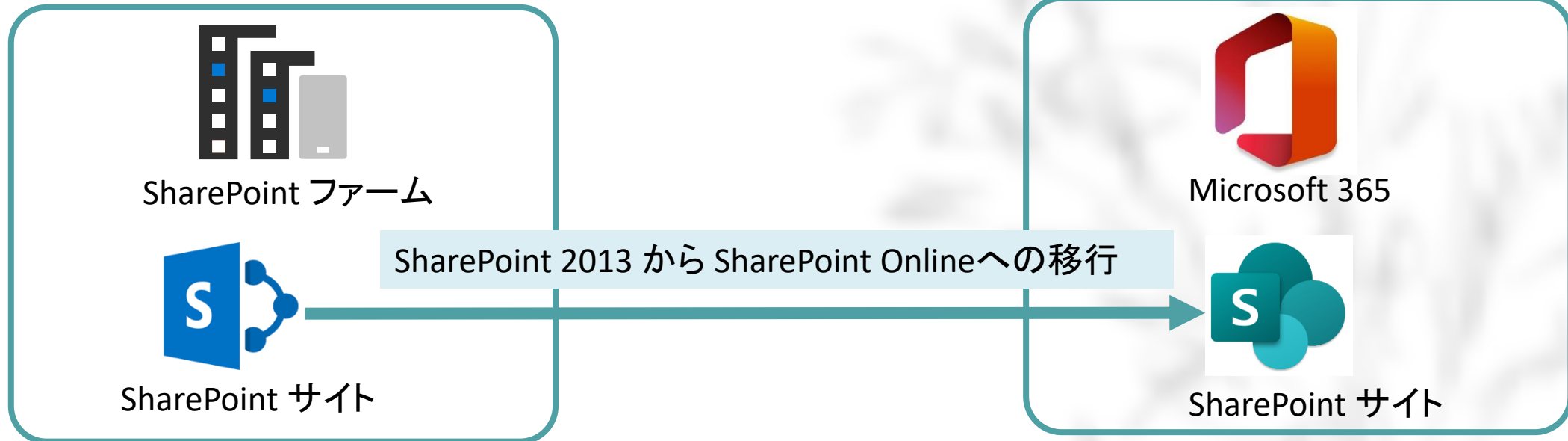
- ワークフロー
- Webパーツ
- PowerApps

移行元環境からのデータは移行ツール（ShareGate）を使用してサイト単位に移行します

- サイトの情報を読み取って移行するため、テナントの設定は移行不可
- サイトのURLが変わるため、コンテンツのURL変更が必要
- オンプレミス環境でのみ利用可能な機能は、移行不可（旧ワークフロー、Newマークの表示期間変更等）

移行元 SharePoint 2013 ファーム

移行先 SharePoint Online



本ページでは移行ツール（ShareGate）で実現できる事を整理しています

コンテンツの移行

ファイル、フォルダ構成、リストアイテムを、
移行対象先の指定した場所に設置する事が可能です。

※受け皿の移行も可能です。



作成・更新情報の移行

作成者・作成日時・更新者・更新日時情報を
維持した状態で移行対象先に移設する事が可能です。

※退職等で移行先に該当するユーザーが不在の場合、
作成者・更新者情報は「システム管理者」となります。



アクセス権限の移行

ファイル、フォルダ構成、リストアイテムに付与されている、
アクセス権限対象情報とアクセス付与レベルの移行が可能です。

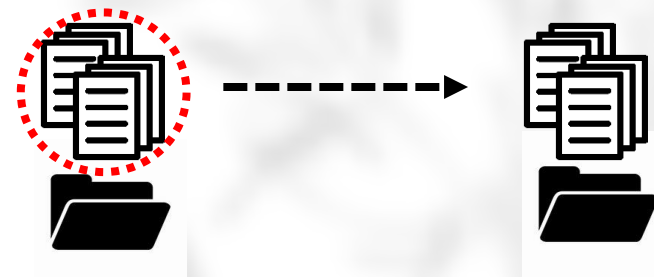
※移行先に該当ユーザー・グループが存在しない場合、マッピングが必要です。

※グループ移行時、グループの所属ユーザーの情報は移行されません。



差分データの移行

既にデータ移行を実施している場合、差分データのみの移行が可能です。
CO直前に最後の差分移行を行う事で、業務影響を最小化が図れます。



■調査内容

- PowerShellでの現状分析
- 移行対象策定(データ量／最終更新日判断)
- 機能毎の移行先設計
- 移行先構成確認

■ドキュメント

- 現状調査報告書
- 移行方針定義書

300万～

■調査内容

- PowerShellでの現状分析
- 移行対象策定(データ量／最終更新日判断)
- 機能毎の移行先設計
- 移行先構成確認
-
- ShareGateでの現状分析
- 標準機能内のカスタム現状分析(※1)

■ドキュメント

- 現状調査報告書
- 移行方針定義書
-
- サービス利用定義書

600万～

■調査内容

- PowerShellでの現状分析
- 移行対象策定(データ量／最終更新日判断)
- 機能毎の移行先設計
- 移行先構成確認

- ShareGateでの現状分析
- 標準機能内のカスタム現状分析(※1)

- サードパーティの現状分析
- 独自サイトテンプレートの現状分析
- 移行先テナント設計
- 運用設計

■ドキュメント

- 現状調査報告書
- 移行方針定義書

- サービス利用定義書

- SPOテナント設計
(パラメータシート)
- 運用方針定義書

900万～

	LV1	LV2	LV3
予算／規模 状況に合わせて 3つのLvから選べます	・費用を安く短期間 ・小規模なSharePoint調査	・カスタム利用有無まで調査するため、利用実態の全容把握が可能	・詳細な調査を行う ・移行後の運用まで考慮した設計 ・移行時の想定外が少ないので工数が変動しにくい
予算	300万～	600万～	900万～
サイト情報/コンテンツ数	○	○	○
サイト管理者	×	○	○
チェックアウト有無	×	○	○
権限	×	○	○
サイトコレクション設定	×	○	○
マスターページ	×	○	○
ワークフロー	×	△	○
InfoPath/JS/CSS/Webパーツ	△	△	○

△：数まで調査するが処理概要などは対象外

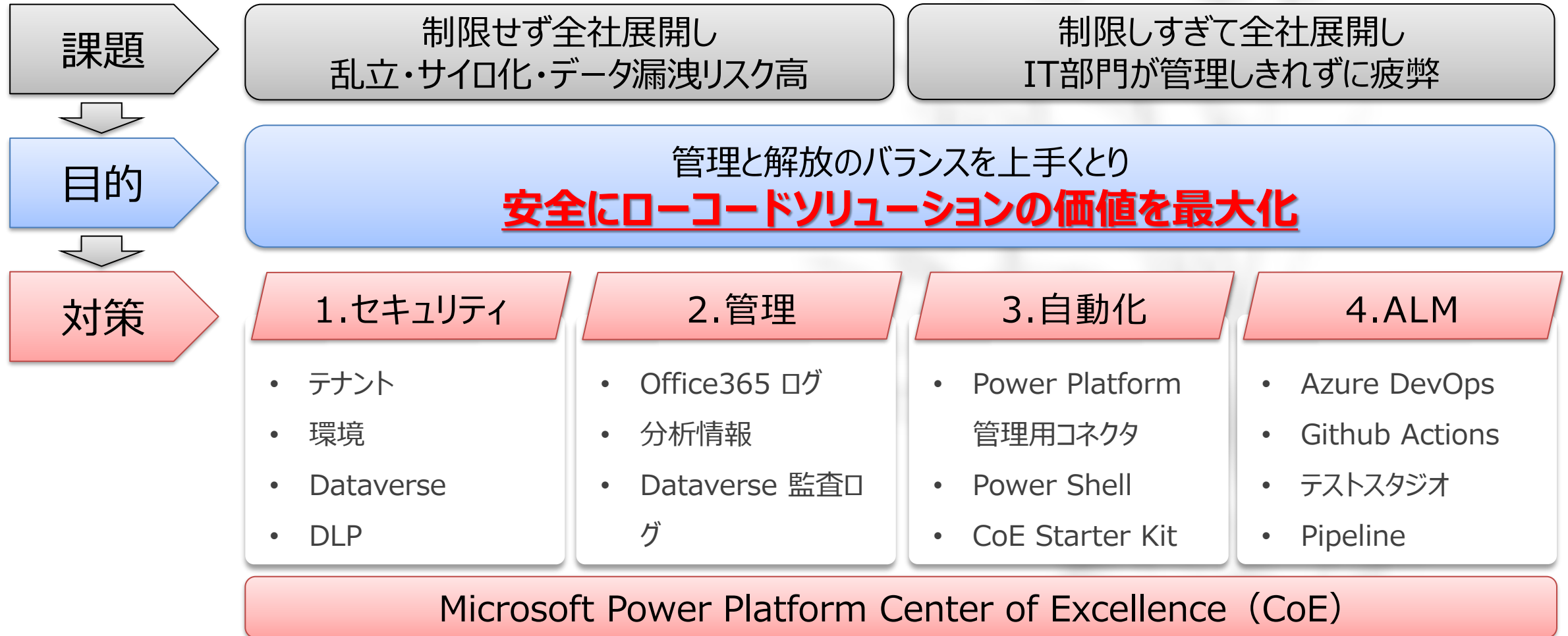
#	調査内容	Lv1	Lv2	Lv3
1	サイト名	○	○	○
2	URL	○	○	○
3	サイトレベル	○	○	○
4	サイト容量 (MB)	○	○	○
5	サブ サイト数	○	○	○
6	作成日	×	○	○
7	最終更新日	○	○	○
8	サイト管理者	×	○	○
9	チェックアウト有無	×	○	○
10	サイト権限が固有	×	○	○
11	ドキュメントライブラリ／コンテンツ数	○	○	○
12	リスト／コンテンツ数	○	○	○
13	案件管理リスト／コンテンツ数	○	○	○
14	アンケート／コンテンツ数	○	○	○
15	5,000件越えのリスト数	○	○	○

#	調査内容	Lv1	Lv2	Lv3
16	ワークフロー数／ステップ数	×	△	○
17	InfoPathの数と概要	△	△	○
18	JS/CSSファイルの数と概要	△	△	○
19	JSLinkの数と概要	△	△	○
20	WebパーツによるJS/CSS/HTMLの数と概要	△	△	○
21	マスターページ設定	×	○	○
22	サブサイトリセット継承有無	×	○	○
23	代替えCSSのURL設定	×	○	○
24	代替えCSS継承有無	×	○	○
25	マスターページカスタム有無	×	○	○
26	サンドボックスソリューション有無	×	○	○
27	独自サイトテンプレート有無	×	○	○
28	コンテンツDB名	○	○	○
29	ベースサイトテンプレート	×	○	○
30	サイト言語	×	○	○

△：数まで調査するが処理概要などは対象外

#	種類	納品物	Lv	期間	調査内容
1	移行アセスメント	移行方針定義書	1	1ヵ月	機能毎の移行先設計
2					移行先デザイン
3					環境構成
4			2	1ヵ月	標準機能内のカスタム移行先設計
5			3	1ヵ月	サードパーティのカスタム移行先設計
6		現状調査報告書	1	1ヵ月	PowerShellでの現状分析
7					移行対象策定（移行対象グルーピング）
8					移行対象選定
9			2	1ヵ月～	ShareGateでの現状分析
10					標準機能内のカスタム詳細分析(件数)
11			3	2ヵ月～	標準機能内のカスタム詳細分析(概要)
12					サードパーティのカスタム詳細分析
13					独自サイトテンプレートの現状分析
14		サービス利用定義書	2	1ヵ月	標準機能内のカスタム詳細分析(機能代替えで必要となる移行先サービス)
			3		
15		SPOテナント設計	3	1ヵ月	移行先テナント設計
16		運用方針定義書	3	1ヵ月	運用設計

SharePoint Online へ移行するにあたり、必然的に利用する事となる
PowerApps / PowerAutomate を全社展開する前に、リスクを抑えて生産性の最大化を狙います。



SharePoint Online移行サービスの契約形態は準委任契約といたします。準委任対応のため契約不適合責任の対象外といたします。

SharePoint Online設計、移行、開発フェーズは請負契約を想定しておりますが、移行アセスメント完了後にお見積りを提示させていただくことを想定しています。

本件における弊社の対応時間は、弊社営業日の9:00～17:30といたします。

作業場所は弊社事務所および、リモート会議等での対応となります。

作業場所が上位以外の場合は出張費用（旅費交通費）を請求させていただきます。

変更追加等が発生した場合、契約期間を含め再見積といたします。

本資料に記載した内容以外の事項につきましては、別途見積が必要となります。

顧客	サイト数	容量	対応内容
A社	283	-	SPS2013→SharePoint Online NintexFormsをPowerAppsで作替え
B社	2,777	80TB	SPS2013→SharePoint Online データ移行、ユーザーサポートのみ対応し、画面修正やWFの作成などは含まない
C社	4,197	428TB	SPS2013→SPS2016,SharePoint Onlin SPS2016:259サイト移行 SPO:3,938サイト移行 SPOへの移行はデータ移行のみ対応



deepcom

DeepCom Co., Ltd.